

広島大学学術情報リポジトリ  
Hiroshima University Institutional Repository

Title	ボルトーニ-リカルド『地方方言話者の都会化』
Author(s)	坂東, 照啓
Citation	ニダバ , 19 : 83 - 85
Issue Date	1990-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00047213">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00047213</a>
Right	
Relation	



## ポルトーニ-リカルド『地方方言話者の都会化』

Stella Maris Bortoni-Ricardo: *The Urbanization of Rural  
Dialect Speakers. A sociolinguistic study of Brazil.*  
Cambridge: Cambridge University Press, 1985. Pp. x+265.

坂 東 照 啓

ブラジル・ポルトガル語の社会言語学的研究を示す本書は、私の知る範囲では、この研究分野において現在英語で読みうる最も主要なものと言える。次の10章から成る本書において焦点とされている対象は、その大部分が社会の周辺的地位にあって、読み書きができない地方出身の都市生活者が話す、いわゆるカイピーラ (caipira 「田舎者」) 方言である。

1. 序論
2. ブラジルにおける社会言語学的状況
3. カイピーラ方言
4. ネットワーク分析： 言語変化を研究するダイナミック・モデル
5. ネットワークの型と方言の伝播性
6. プラスランディア<sup>(1)</sup>におけるデータの収集
7. モデルと方法
8. 言語データの数量的分析
9. 異文化間伝達の問題
10. 結論

この10の章は、大きく2つの部分に分けられるようである。つまり、初めの7つの章で、ブラジルの社会的背景と言語的データが示されるとともに、そのデータの分析に用いる理論についての説明もなされており、そこでは、とりわけ、社会言語学へのネットワーク分析の適用が重点的に述べられている。そして、最後の3つの章では、実際にその方法によってデータが分析され、大変興味深い考察と今後の研究への示唆に富む記述がなされている。中でも第8章は、前章までに述べてきたことを基礎にした上での数量的分析がなされている重要な章であり、その章ではカイピーラ方言に特徴的な3つの言語現象が取り上げられている。それは、次のようなものである (IdPi = 直説法不完了過去、Inf = 不定詞、1 = 1人称、3 = 3人称、sg = 単数、pl = 複数)。

(1) 歯茎硬口蓋側面音/l/ に対する変異体の存在

(例) mulher 「女性」

|mu 'lɛr| <sup>(2)</sup> [標準] → i) |mu 'lɛr|, ii) |mu 'ljɛr|,  
iii) |muj 'jɛ:|

(2) 語末の強勢のない音節における上昇二重母音の単純化

(例) armário 「戸だな」

|ar 'marju| [標準] → |ar 'maru|

princípio 「始め」

|pri 'sipju| [標準] → |pri 'sipu|

Brasília 「ブラジリア (地名)」

|bra 'zilja| [標準] → i) |bra 'zila|, ii) |bra 'zila|

(3) 1・3人称複数主語に対する動詞の不一致

(例) Nós queríamos ir. [標準] 「私たちは行きたい」  
we would like-IdPi 1pl to go-Inf

→ Nós queria ir.  
we would like-IdPi 1/3sg to go-Inf

Eles queriam ir. [標準] 「彼らは行きたい」  
they would like-IdPi 3pl to go-Inf

→ Eles queria ir.  
they would like-IdPi 1/3sg to go-Inf

著者は、上のような方言形と、その話者のさまざまな社会的特徴との相関関係を考察し、その関係が、都市や交際の“都会性 (urbanness)”において、どの程度の広さのネットワークに組み込まれている（あるいは、孤立している）かということを反映していると述べている。さらに、男性・女性の間には存在する言語差についても、女性の交際範囲が、都市に移住後も家庭内や近隣が中心となるため、男性とは異なったネットワークを持つことが要因として考えられる、といった言及がなされている。

著者のデータ分析は詳細になされており、ブラジルの社会言語学的研究における一つの成果を示している。ただ、どのようにカイピーラ方言が標準ポルトガル語から離れ、形成されていったのかという歴史的な側面については、本書の直接的なねらいからはずれるため、あまり触れられていない。仮に、この面についての研究が進めば、言語の一般的なビジョン・クレオール化を考える上でも、大きな意義を持つことになるのではないかと考えられる。しかしながら、近年第3世界での都市化がもたらした言語現象についての研究が増えつつある中、本書の記述は、他地域との比較を可能ならしめており、そうした分野に関

心を持つ研究者からも評価されるはずである。

(注)

(1) ブラスランディア (Brazlândia) は、首都ブラジリア (Brasília) の衛星都市のひとつ。

(2) mulher <ラテン語 muliere- 。

<参考文献>

Melo, Gladstone Chaves de. (1981), *A Língua do Brasil*.  
Padrão, Rio de Janeiro.